



羽澤ガーデン

今、魅せる輝き

江戸、東京、そしてニューヨーク、パリ。

～中村是公 三千坪の屋敷～

現場検証・鑑定記念フォーラム ニュース

2011年2月5日（土）午後2時より、国際文化会館岩崎小弥太記念ホールにおいて、羽澤ガーデン現場検証・鑑定記念フォーラム&コンサートが開催されました。

開始時にはほぼ満席になり、世論の関心の高さをうかがわせました。これに応え、鑑定結果は、羽澤ガーデンが際立つ重要文化財であることを、現場の確証をふまえ、ゆるぎないものとなりました。

当日のプログラム

総合司会 斉藤 驍（弁護士）

開会あいさつ

第1部 コンサート 羽澤ガーデンが奏でる和洋の調べ
～司会・演出・構成 有賀誠門（東京芸大名誉教授）

- 1、ヴァイオリン 豊嶋めぐみ（セルビア国立ノヴィサド大学准教授）
- 2、尺八 クリストファー・遙盟（国際文化会館芸術監督）

第2部 鑑定発表フォーラム 映像も語るその文化

- 1、現場検証の証言 映像とともに 富田 裕（弁護士・建築家）
- 2、検証鑑定専門委員会 結果報告 前野まさる（鑑定委員長・前日本エコモス委員長）

(1) 付言 西 和夫（元文化庁文化審議会委員）

(2) 付言 赤坂 信（千葉大学園芸学部教授）

3、コメント

半藤一利（作家・歴史家）、半藤末利子（エッセイスト）、

黒井千次（作家）、有馬富美子（中村是公孫）

エピローグに代えて ミニコンサート 司会・演奏 有賀誠門



【多彩な方々のご出席をいただきました】

今回のフォーラムは、専門家の方のみならず、実に様々な方が出席されました。夏目漱石が「修善寺の大患」の折に療養していた「菊屋旅館」の女将・野田みどりさん、お茶の水のカザルスホール保存運動を推進しているピアニストの岩崎淑さん、岩崎弥太郎の曾孫にあたる木内孝さん、京都漱石の会の代表で直近に「夏目漱石の京都」を著された丹治伊都子さん、文化財保存全国協議会代表委員の十菱駿武さん等、羽澤ガーデンの縁は深く大きいことをあらためて感じさせました。

【中村是公とフォーラムの意義】

まず、総合司会の斉藤驍氏（羽澤ガーデン弁護団長）より、中村是公がパリで乗馬を披露し、それが地元の新聞に掲載されるほどの腕前であったことを、馬をかわいがる中村是公の写真を示して紹介しながら、是公と羽澤ガーデンの江戸から現在に至る国際的文化と

現場検証から本フォーラムに至る経過について、あいさつと報告がされました。

👉 コンサート ～和洋の調べ

第一部のコンサートでは豊嶋めぐみ氏のヴァイオリン、クリストファー遙盟氏の尺八の素晴らしい音色が響きわたり大変な好評でした。この響きを文字で伝えられないことが残念です。



日本の古歌からモンテネグロ民謡まで
～豊嶋めぐみ氏のヴァイオリン



鶴のはばたきが響きわたる
～クリストファー遙盟氏の尺八

👉 検証と鑑定結果発表 ～羽澤ガーデンは際立つ重要文化財である～

コンサートの後、いよいよ検証の内容に入ります。



現場を証言する富田氏

【現場検証からの証言】

最初に、これまで建築家として多くの設計を手がけ、さまざまな文化財に触れてきた一方、弁護士として今回の現場検証にも立ち会った富田裕氏から、検証の証言が行われました。多数のスライドを用いた解説は、まさに「魅せる」羽澤ガーデンでした。

同氏は、はっとする変化を楽しめる庭や、玄関をくぐると中庭が一望できる構造等、訪れる人の心を捉える仕掛けが建物と庭の随所に施されていることを説明し、ここに中村是公という人物そのものを垣間見ることが出来て、一層重要文化財としてふさわしい旨証言されました。

【鑑定委員会の結果発表】

次に、前野まさる鑑定委員長により、次のとおりの鑑定結果が発表されました。

- (1) この地は江戸・明治・大正・昭和と続く都市の文脈を承継する場所であり、伝統と文化を凝縮した建物、起伏のある敷地を活かした変化に富んだ庭を有し、この基本的構造は変わらないし、ほとんど他に類を見ない。
- (2) 建物は日本の伝統的技術と意匠を用いて丹念に作られる一方、玄関から中庭を望む構造や、客間と家族間の結合に洋風の書斎を配置する等、設計が実に絶妙である。関東大震災や第二次大戦で多くが失われた文化住宅の遺構であり、和風建築近代化の歴史の象徴である。
- (3) 近代史の重要な政治家である一方、文化や芸術を理解し支援した中村是公及び漱石等の同時代人の近代史人物像、および戦後になるとGHQによって日本文化を伝えるところとなり、料亭時代は多くの著名な政治家・財界人・文化人が訪れる地となって、文化を国際的・重層的に伝えている。



鑑定結果を発表する前野委員長

以上の理由等から、羽澤ガーデンはまさに際立つ重要文化財であり、保存し、後世に伝えていくべきものであると鑑定結果をまとめられました。

最後に、今後は重要文化財として一般に公開し、日本文化の発信基地として国際的にも有効に活用されるよう官民に求めると結ばれました。



左から赤坂信氏、西和夫氏

続けて、鑑定結果に対し、西和夫氏と赤坂信氏から建物と庭についてそれぞれ付言がありました。

建物について、西氏は「伝統的な和風の格子枠を多用しつつ近代風を織り交ぜた見事な建築物であり、これだけのものが都心にそのまま残されていることは極めて貴重である。」と言われ、続いて赤坂氏は、庭について「庭の配置すべてを調べたところ、バランスが絶妙であり、かつての武蔵野をもしのばせる。」と言われました。

👉 多数のコメント ～各界より同感、賛同の声～



左から黒井千次氏、有馬富美子氏、半藤末利子氏、半藤一利氏

鑑定結果に対して、これまで会を支えてこられた方を代表し、半藤一利・末利子ご夫妻、黒井千次氏、有馬富美子氏のコメントが寄せられました。

最初に黒井千次氏がコメントされ、「今、古い建物は取り壊して建て替えが主流となっているが、普通の家でも建て替えられれば以前どんなものがあつたのか思い出せなくなる。まして羽澤ガーデンほどの建物がつぶされれば、地域の記憶自体がなくなり、都市の歴史が断ち切られ、全然違う街になる。」と、開発による都市の文脈の断絶を指摘されました。

続いて半藤一利氏は「昔、名人戦の舞台上で食事してみようと誘われ、松の間に行ったことがあり、今回そのスライドを見て『おお、これだ』と非常に懐かしく思った。日本の悪い面は、過去を簡単に捨てて全部忘れてしまうところである。先の戦争にもそれがあらわれたが、この歴史的な建物を取り壊そうとしているところはそれに通じる。是非改めなければならない。」というお話をされました。

半藤末利子氏は「少子化が進んでいるのに、将来的な視点もなく新築マンションがどんどん建っている。近くの日赤の貴重な庭もつぶされてマンションになったが、あまり人が住んでいない。非常にもったいないことをした。この地に残った羽澤ガーデンを取りつぶしてまでマンションを作る意義があるのだろうか。ぜひ考え直してほしい。」と現状の開発優先姿勢に疑問を投げかけました。

最後に有馬富美子氏が、自分の祖父が建てたものが現代まで残り、多くの人に愛され続け、そして今重要文化財として残そうという運動が大きく広がっていることに対する感謝の気持ちを表明されました。

【さまざまな賛同のコメントが寄せられましたので、ご紹介します】

最初に、大臣在任中、私たち「守る会」と2度にわたる会談をして理解を示された川端達夫前文部科学大臣のコメントです。

羽澤ガーデンの文化的価値は既に皆様ご承知のとおりですが、さらに幅広い多くの方々に紹介、理解され重要文化財として保存されますことをご祈念いたします。

2005年に羽澤ガーデンを実際に訪ね、その文化と歴史に触れられた夏目漱石令孫の松岡陽子マックレイン米国オレゴン大名誉教授のコメントです。

羽澤ガーデン、つまり中村是公の旧邸が壊され、その地にマンションが建つという噂を耳にし、あまりにも思慮の欠けた計画だと、信じられませんでした。なぜなら、それは日本の重要な近代歴史を無視した考えであるからです。

その他多数のコメントをお寄せいただきました。



【最後まで楽しい演出が待っていました】

閉会宣言後、エピローグに代わって、有賀誠門氏の打楽器が始まりました。情感とリズムに乗った激しさは、緻密な仕事をしつつも磊落な性格で「べらんめい総裁」と綽名された中村是公を思わせるものでした。

最後にこの彩を添え、保存を期する参加者の力強い拍手でフォーラムは幕を閉じました。

今回のフォーラムは、重要文化財指定・保存に向けて巨歩を進めたことになるでしょう。

裁判傍聴のお願い

このフォーラムで発表された鑑定結果は、現在審理中の羽澤ガーデンの開発差止め裁判に提出されます。開発を5年も凍結させているのは、住民側の主張に理があり、真実があるからです。今回のフォーラムの力を加えて、裁判が勝利するように全力をあげましょう。裁判の傍聴は、現在、最も有力な支援になります。

次回裁判期日 3月15日(火) 午後3時30分 東京地方裁判所103号法廷

**建築計画縮小！ お知らせ看板撤去！
もう一步！力を合わせて、保存を実現しましょう！**

現場検証の直後、昨年12月27日、現地に掲げられている建築計画のお知らせ看板が撤去されていることが分かりました。事業者が計画を見直し、規模を縮小すると東京都に届け出たのです。

多くの方々の声が力となり、事態を動かしたのです。

しかし、それでも中村是公邸を含む建物解体のお知らせ看板は残されています。是公邸を取り払うマンション建築計画の枠組みは残っています。解体工事はいつ始まるかわかりません、

羽澤ガーデンの文化財としての価値は、緑の杜と庭園の中に近代和風建築の屋敷が配置され、全体が一体となって時代の雰囲気醸し出す独特の宇宙を形造っていること、この屋敷全体が歴史を持つことにあります。

この機会にこそ、羽澤ガーデンを重要文化財として守る声を一気に強めていきましょう！

羽澤ガーデンを守る会 現場検証鑑定記念フォーラム開催 特別号 2011年2月14日発行(通算6号)

発行 羽澤ガーデンの文化財と景観を守る会 総務理事 栗山尚一・前野まさる

(事務局) 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス302 齊藤驍法律事務所内

Tel. 03-3237-0888 E-mail: mamorukai-hanezawa@train.ocn.ne.jp